



患者中心の参加型医療をめざして2004

主催：HCRM研究会
 後援：健康保険組合連合会(予定) / 社団法人 日本病院会
 財団法人 日本総合研究所 経営学部 / 産能大学 通識学課程

「患者安全と快適空間の創造」

～ギャップから生まれる新サービス・新商品～

2004年5月23日(日) 13:30～17:30
 国立オリンピック記念青少年総合センター セミナーホール(センター棟4階)

小田急線参宮橋駅徒歩7分 / 千代田線代々木公園駅徒歩10分

HCRM研究会では「患者中心の参加型医療」の実現をめざし、理論的かつ実践的な研究活動を行っています。2003年夏には「衣・食・住」に関し入院患者さんから「こんなサービス・商品あったらいいな」というアイデアを募集し、「国際モダンホスピタルショー2003」にて発表。調査に基づいて制作した入院専用/ビジャマの製品サンプルも展示しました。

その結果、患者さんが不便・不快に思っていることの多くが、患者さんの安全や診療・療養上の都合から規制・禁止されていることが明らかになりました。これを踏まえ、2004年春には全国300床以上の病院を対象に規制事項に関する実態調査を行いましたので、その結果を当日報告します。

一体、患者さんの求める病院のあり方と病院の現状とはどれほどギャップがあるのでしょうか。病院には患者さんの安全を確保する責任がある以上、携帯電話や面会時間、喫煙など患者さんの生活を制限することも時には必要でしょう。一方、見直しが可能な事項や、技術的な進歩で克服できることも多々ありそうです。

4回目を迎える今年のシンポジウムのテーマは「患者安全と快適空間」といたしました。患者と病院とのギャップから生まれる新サービス・商品の可能性を探り、安全で快適な病院づくりの方法を考えていきます。患者サービスと安全管理とのギャップを解決したい医療現場の方、新たな医療サービスや商品開発に興味をお持ちの方などの参加をお待ちしています。

基調講演 全国の病院実態調査を踏まえて

400名の入院患者が考えた・こんな新商品・サービスあったらいいな!

いいなステーション代表 **和田 ちひろ**
 国立長野病院 副院長 **武藤 正樹**

シンポジウム 患者安全と快適空間

～ギャップから生まれる新サービス・新商品

東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科助教授 **阿部 俊子**
 蒲郡市民病院 院長 **伊藤 健一**
 朝日新聞記者・「がんと向き合って」著者 **上野 創**
 榊ローソン 業態開発チームホスピタルローソンマネジャー **長迫 佳男**

事例紹介

患者安全と快適空間を創り出す新たなサービス・商品の導入事例も紹介します。

懇親会

お申し込み

インターネット・FAXでお申し込み下さい。定員(300人)に達し次第締め切りとさせていただきます。

◇インターネット www.hcrm.net (5月21日まで)

◇ファックス **03-5283-1610** (5月7日まで)

◇参加費 一般 3,000円 HCRM研究会会員 2,000円